

今年もまた・・・ 台風季節

大雨による土砂災害はあなたのすぐそばに・・・

緊急

土砂災害対策
5つのポイント

毎年、平均27個の台風が発生しています。このうち11前後の台風が8月末から9月に日本へ接近、うち3～5個が上陸しています。

今年7月の豪雨では全国各地で土砂災害が発生し、市内でも、平成16年の台風23号の風倒木や大雨により地盤が緩み土砂災害などが発生する危険が増大しています。土砂災害の前兆に注意し、危険を感じたら早めの避難を心がけましょう。

1 雨の強さと降り方に注意!

1時間雨量(ミリ)	予報用語	人の受けるイメージ	災害発生状況
10以上20未満	やや強い雨	ザーザーと降る	この程度でも長く続くときは注意が必要
20以上30未満	強い雨	どしゃ降り	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる
30以上50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る	山やがけが崩れやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。下水管から雨水があふれる
50以上80未満	非常に激しい雨	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する
80以上	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる	雨による大規模災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要

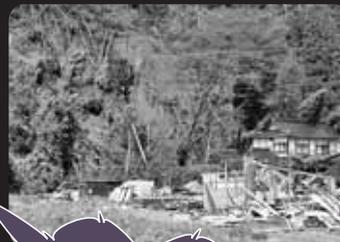
⚠ 地域によって異なりますが、1時間に20ミリ以上、または降り始めから100ミリ以上の雨が続いたら災害の危険性が高くなります。気象情報に注意し、浸水対策を含め、十分な警戒が必要です

2 これが土砂災害の前兆!

がけ崩れの前兆 がけからの水が濁る／がけに亀裂が入る／小石が落ちてくる／がけから音がある

土石流の前兆 山鳴りがする／雨が降り続けているのに川の水位が下がる／川が濁ったり、流木が見られる

地すべりの前兆 地面にひび割れができる／井戸や沢の水が濁る／がけや斜面から水が噴き出す



台風が接近しているときに屋根や雨どいを修理するのは非常に危険です。

3 避難のタイミングを見逃さないで!

- ・土砂災害の前兆を発見したとき
- ・避難勧告や避難指示が出たとき
- ・時間雨量や累加雨量が災害の危険性のあるとき
- ・高齢者や乳幼児などの避難は早めに

4 避難のときは急がず落ち着いて!

- ・火元の確認。ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを落とす
- ・荷物は最小限の非常持出品で
- ・移動時は、川べりなど危険が多い場所は避ける
- ・避難場所、避難経路は事前に確認しておくこと
- ・近所の高齢者、乳幼児、病人などの避難支援を忘れずに!

5 やっぱり“日ごろの備え”が肝心

- ・停電や断水などに備えて、携帯ラジオ、懐中電灯、飲料水、非常食料の準備を
- ・加害者にならないためにも家の点検・補修を(飛散するものは室内へ)
- ・側溝のごみや土砂は取り除いておく
- ・浸水などの恐れがあるところでは、生活用品を高い場所へ

災害発生や前兆を発見したら、ご連絡ください。

危機管理室 ☎ 32-2042

災害対策本部 ☎ 23-2130

消防署 ☎ 31-1119